

令和2年度第2回食育推進評価専門委員会資料

食育における口腔機能の 大切さ

歯科医師 田村文誉

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

超高齢社会の問題

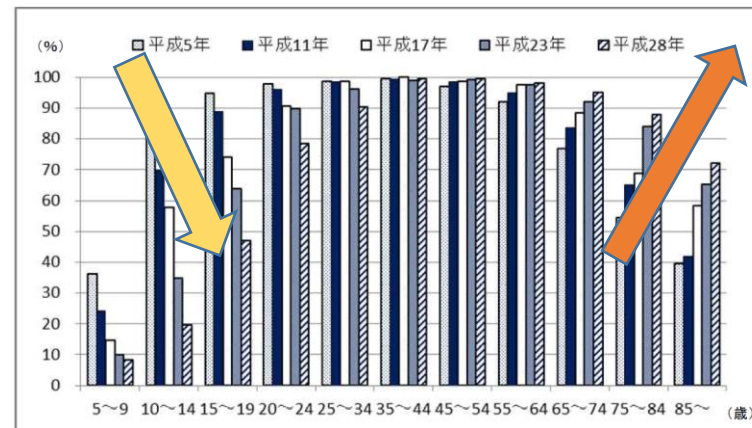
子どものう蝕は減り
高齢者のう蝕は増加！

日本の総人口における
65歳以上の高齢者の割合

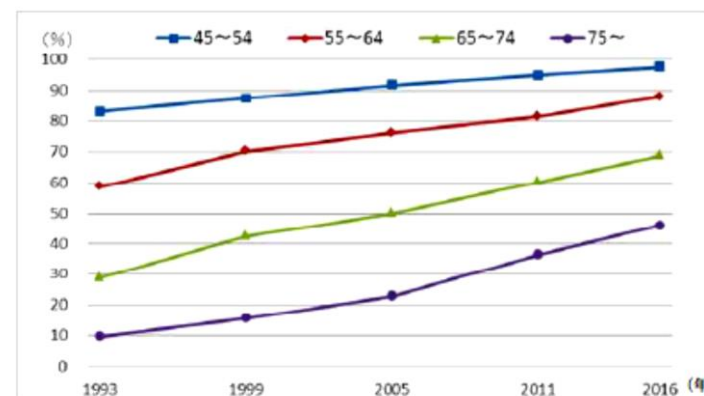
- 2019年には28.4%
- 2040年には35.3%の予測

3人に1人は高齢者の時代

総務省統計局 <https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1211.html>



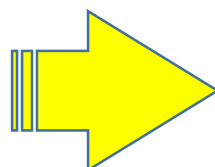
20本以上の歯を有する高齢者は増えている



平成28年度歯科疾患実態調査より

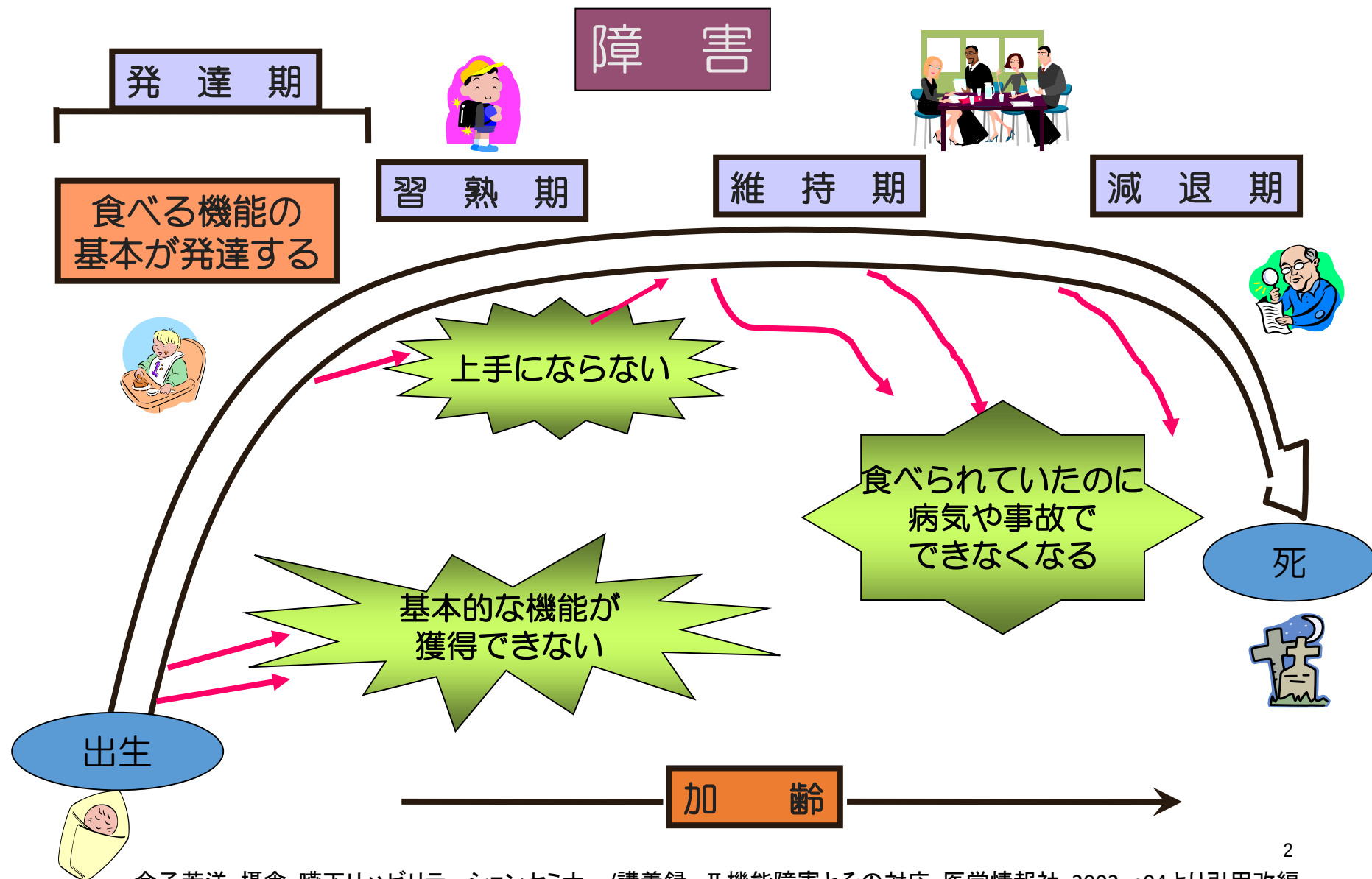


- 歯を磨かないとどうなるか？
- 要介護になって歯を磨けなくなるとどうなるか？



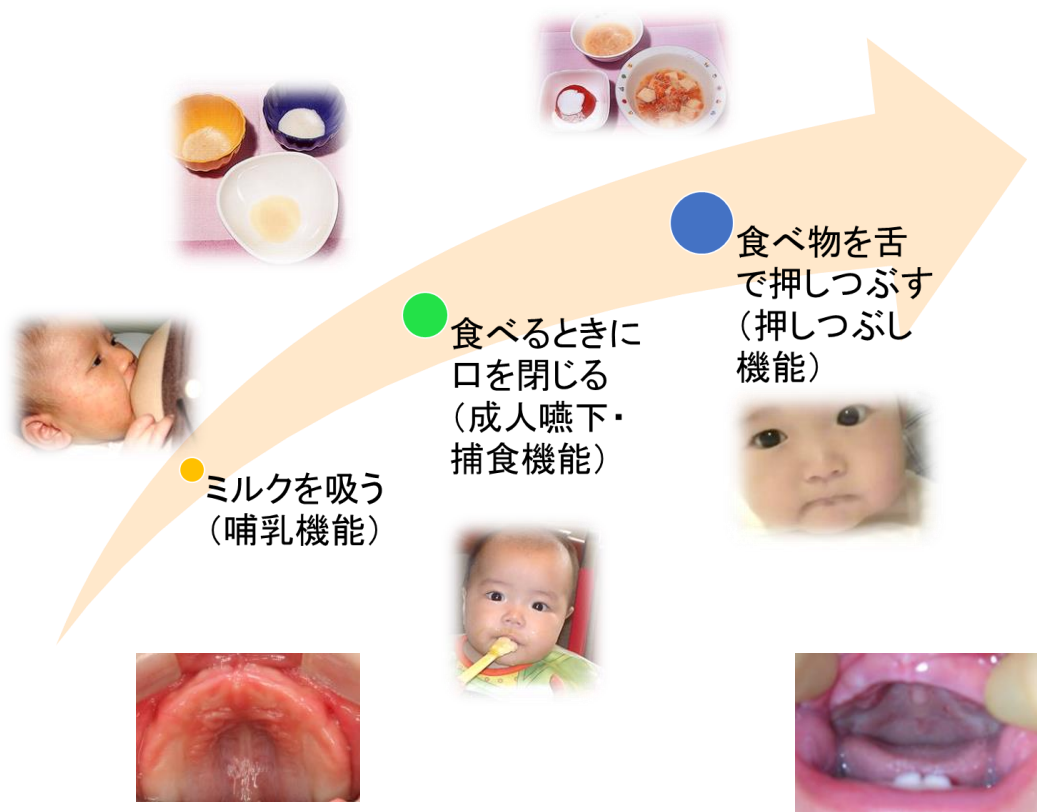
口腔崩壊

食べる機能の発達と老化

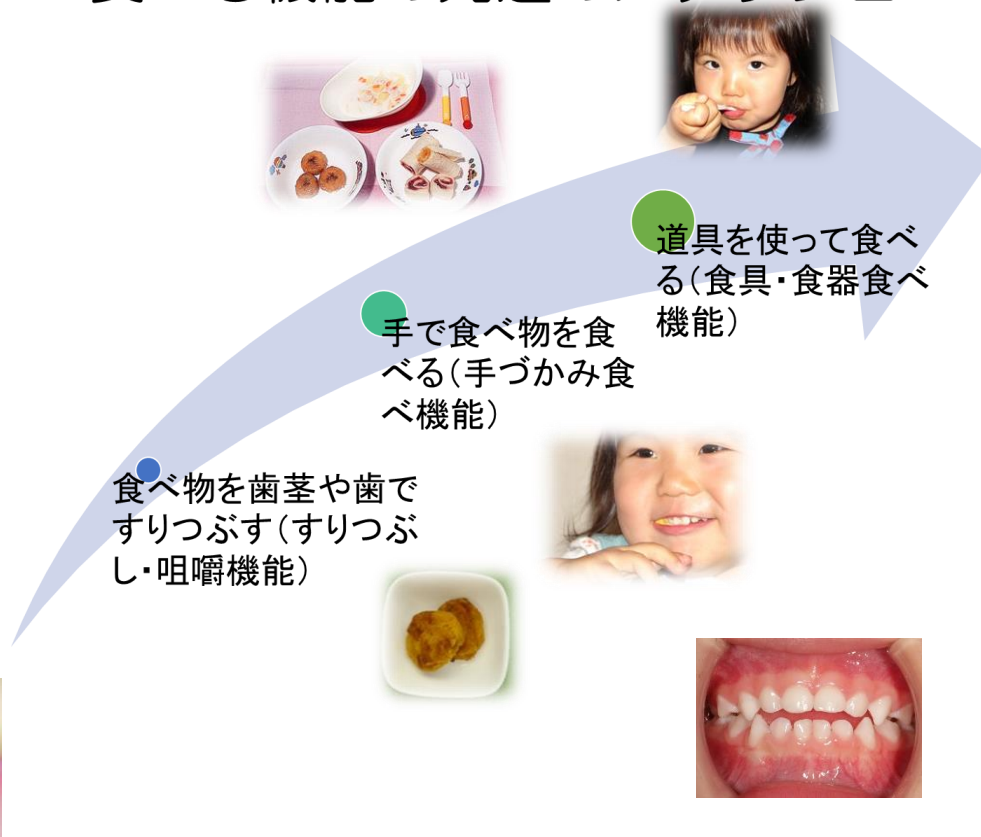


乳幼児期は食べる機能の基本が獲得される時期

食べる機能の発達ステップ1



食べる機能の発達ステップ2



高齢期は口腔機能が減退していく時期

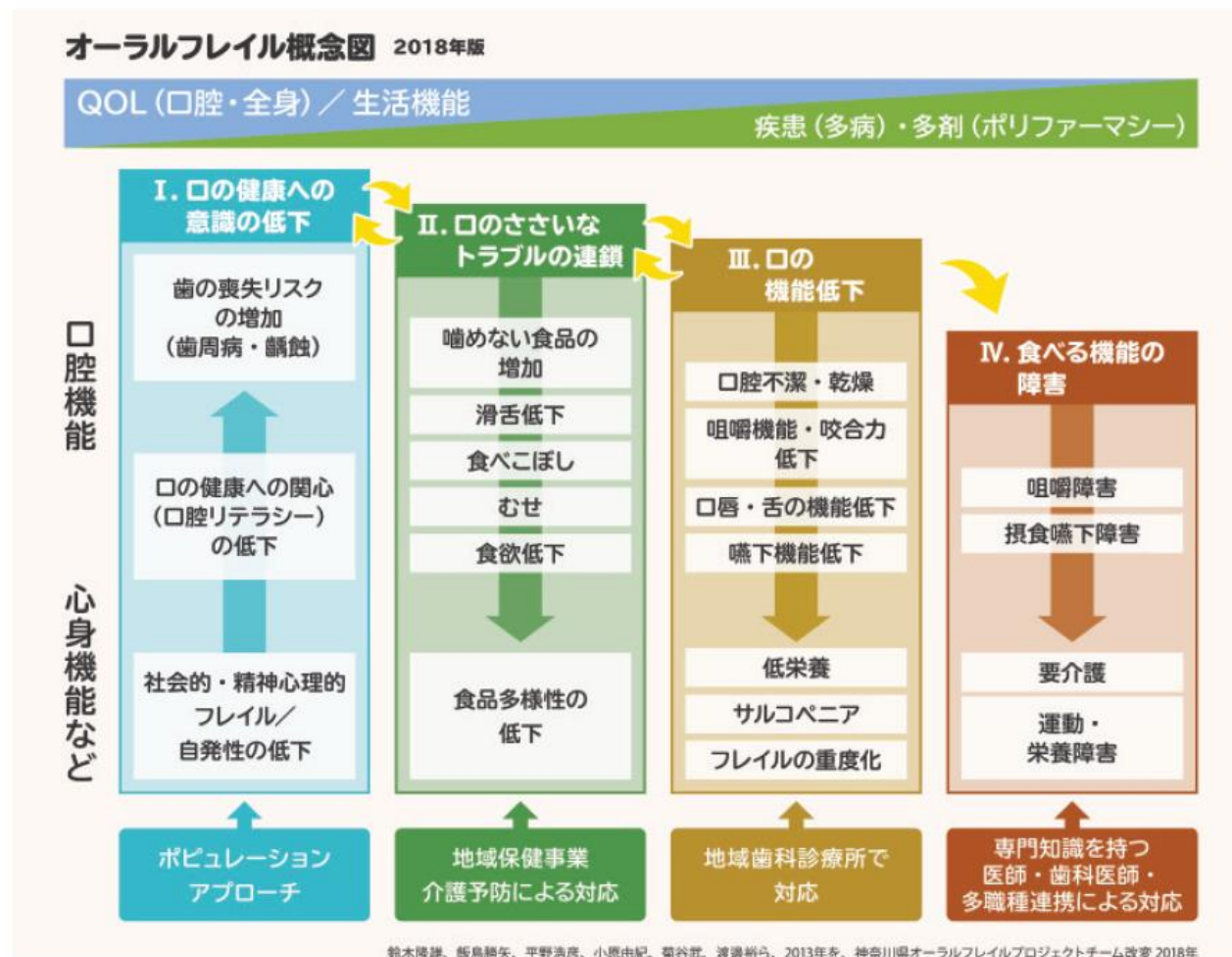


図 5

参考資料

「オーラルフレイルハンドブック」

神奈川県健康増進課・一般社団法人神奈川県歯科医師会

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/s001/documents/kanagawahandbook.pdf>

平成30年、口腔機能の発達する乳幼児期・口腔機能の低下する高齢期をターゲットとした「口腔機能発達不全症」「口腔機能低下症」が歯科診療で対応可能に！

加齢による口腔機能の変化のイメージ

中医協 総－2

25.7.31

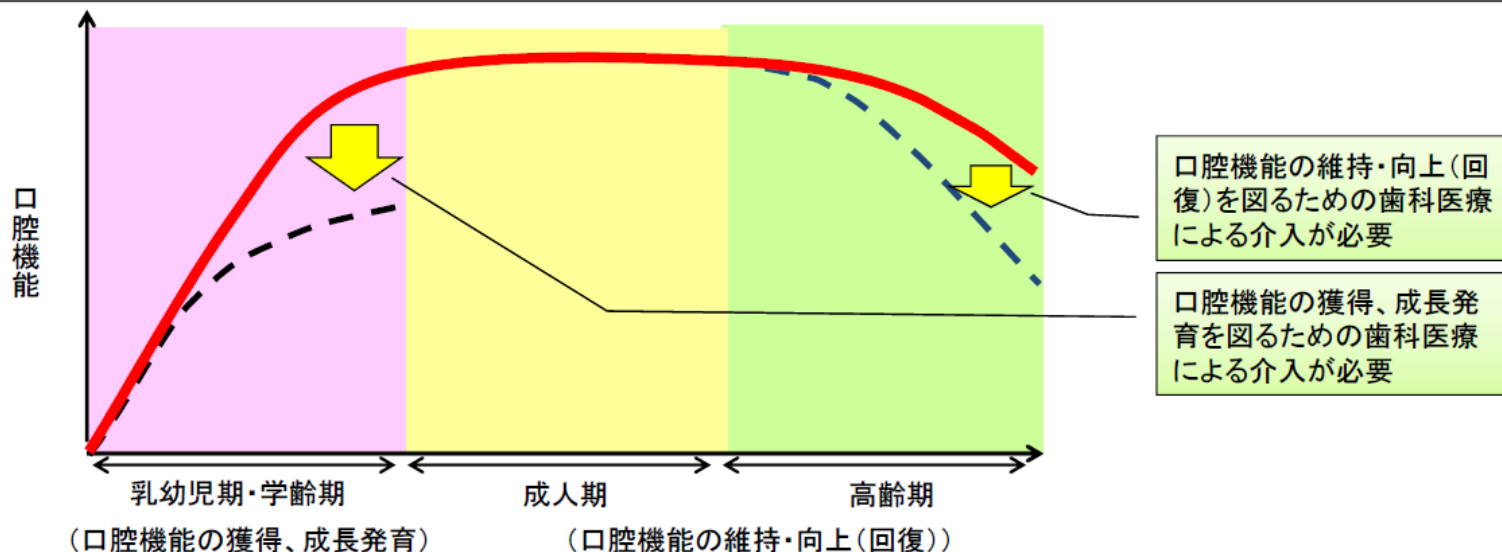
【歯科口腔保健の推進に関する法律(平成23年法律第95号)第12条第1項の規定に基づく基本的事項】

第一 歯科口腔保健の推進のための基本的な方針

三 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上

食べる喜び、話す楽しみ等のQOL(生活の質)の向上を図るためには、口腔機能の維持・向上が重要である。

高齢期においては、摂食・嚥下等の口腔機能が低下しやすく、これを防ぐためには、特に、乳幼児期から学齢期(高等学校を含む。)にかけて、良好な口腔・顎・顔面の成長発達及び適切な口腔機能を獲得し、成人期・高齢期にかけて口腔機能の維持・向上を図っていくことが重要である。



— : 乳幼児期・学童期に適切な口腔機能(咀嚼機能等)を獲得し、成人期に至った後、加齢に伴い(機能)低下していくイメージ

- - - : 乳幼児期・学童期に、歯科疾患や口腔機能の成長発達の遅れ等を生じ、歯科医療による介入が行われないイメージ

- - - : 高齢期に、歯科疾患や全身疾患に伴う口腔(内)症状(合併症)等を生じ、歯科医療による介入が行われないイメージ

口腔機能発達不全症とは

離乳完了前



- 乳首をしっかり口にふくむことができない
- 舌小帯に異常がある
- 授乳時間が長すぎる
- スプーンを舌で押し出す状態がみられる
- 離乳食が進まない
- やせ, または肥満である
- 口腔周囲に過敏がある

など



離乳完了後



- 舌の突出がみられる
- 歯の萌出に遅れがある
- 機能的因子による歯列・咬合の異常がある
- 咀嚼時間が長すぎる
- 食べる量にムラがある
- 言葉の障害がある
- やせ, または肥満である
- 睡眠時のいびきがある

など



こう ぐう き のう てい か しょう 口腔機能低下症とは

最近、お口の健康に関心がうすくなってはいませんか？
歯磨きの回数や時間が減ったり、義歯の不調があっても歯医者さんに行かなかったりすると、虫歯や歯周病が進行し歯の数が減ってしまいます。そうすると食べる力が低下して、食べにくい野菜やお肉を避けてしまいます。すると栄養の偏りやエネルギーの不足になり、全身の健康に影響を及ぼします。

